

非常に話が上手くてグレートコミュニケーターと言われた彼は、ラジオの名アナウンサーになって、「あの名アナウンサーが俳優に転身！」ということでハリウッドに出ようと考えました。



これがハリウッド時代のレーガンです。非常に男前ですね。彼は53本の映画に出ましたが、しかし、どれもヒットしませんでした。俳優としては、もう一つなんです。それで俳優業をやめて、カリフォルニア州の知事になりました。ここには知事時代にやった功績のブースがあります。



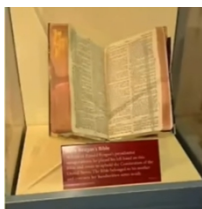
少年時代、大学生時代、アナウンサー時代、俳優時代、知事時代で部屋が分かれてるんですが、一番人気はこのブースですよ。第40代アメリカ大統領。

レーガンの前はカーター大統領です。彼は非常にクリーンだというイメージだけで当選した人。

カーターの前はニクソン大統領で、ウォーターゲート事件。スキャンダルで、任期全うせずに途中で辞めた大統領ですよ。

だからその後に、クリーンな大統領ということでカーターが出て来たのはいいんですが、外交的にはもう一つ。彼はクリスチャンなので、あまり悪口言いたくないんですが、もう一つじゃなくてももう二つやね。

それで、弱くなってしまったアメリカを立て直す西部の男がやって来た！



レーガン大統領のブースに入ると、最初に飛び込んで来るのが、ガラスケースに入った聖書です。これは彼のお母さんが愛用していた聖書なんです。この聖書は開かれています。それはレーガン大統領が最も愛した章で、ヨハネの手紙第一の4章。



大統領になると、左手を聖書の上に置いて、右手を掲げて「私は4年間の大統領職を忠実に果たします」と誓うんですね。

アメリカ大統領は2期8年までオーケーです。

彼は2回とも当選し、宣誓には同じ聖書を使いました。

真ん中にある女性はナンシーさん。奥様ですね。左側がレーガン大統領。



これを模擬体験できる場所があって、私もやって来ました。こういうのをミーハーというんですね。まだ続きがありますが、ここまでにします。

レーガン大統領のお父さんはアイルランド人です。先祖はアイルランドからの移民で、アイルランドは基本カトリックが強い。なので、レーガン大統領のお父さんはカトリック教徒です。

お母さんはプロテスタントの福音派で、彼女が通った教会はディサイプル・チャーチと呼ばれているところなんです。直訳すると「弟子教会」。キリストの弟子。この教会の特徴は2つあります。

①聖書を額面とおり信じる。「ここはたとえだ」とか、奇跡が出て来たら「そんなことは信じない」という解釈はしない。聖書の記事をそのまま事実として受け入れていくという立場で、私たちと同じなんです。

②キリストの再臨を強調する。キリストが再び来る。キリストは十字架にかかって、墓に葬られて、3日目によみがえって、天に帰って行ったきり？いいえ。聖書はひと言で言うと、こんな本です。罪によって人間も世界もぐちゃぐちゃに壊れてしまった。この人間と自然界を全く新しく回復させるために、キリストは再びやって来る。これは未来に起こることです。これを特に終末論と言います。

レーガン大統領は、少年時代に終末論を学んで大きくなりました。私たちを案内してくださった係員は、レーガン大統領のグレートコミュニケーターのトレーニングの始まりは、教会の日曜学校で彼自身が聖書の話をしたことが大きいらしいと言っていました。

つまり、冷戦時代に最強のアメリカを演じ、ソ連の核兵器を全部ゼロの戦力にするためにSDI（スターウォーズ計画）というハッタリをぶちかました。あのレーガン大統領の世界観は、聖書の終末観なんです。日本人の終末観・歴史観は何ですか。輪廻的でしょ。同じようなことがぐるぐる永遠に続くみたいな。聖書はそう言ってません。

人類はキリストの再臨を目掛けて真っ直ぐに進んでいる。しかし、キリストの再臨の前に、人類史上最も恐るべき時代に突入する。その時代は、最初の3年半だけで世界人口が半分になるくらい。7年間続くこの最も恐ろしい時代が艱難時代で、その最後にキリストが再臨する。これに関する考えが終末論です。

今日はダニエル書3章ですが、ダニエル書は1章から12章まで全部、終末論を語る預言書です。ある人は「ダニエル書は旧約の黙示録だ」と言いました。今日は、終末時代の型としてダニエル書3章の出来事を考えます。

最初にサッとあらすじを言います。今から2600年くらい前の中東世界を制覇した大帝国バビロン。その黄金時代をつくったネブカドネツアル王が、金の偶像を建てました。そして、バビロン帝国の指導者たち、行政官たち、政治家たちをみんな集めて「この像を拝め！」その像の隣に人間を焼き殺すための炉を造って、像を拝まない人たちを投げ入れて焼き殺す。ネブカドネツアルは人を焼き殺すのが好きな人なんです。

エレミヤ書29章にそれが出て来ます。

みんなは、焼き殺されないために像を拝むんです。

ところが、その像を拝まないバビロンのトップ行政官が3人いました。ユダヤ人青年のシャデラク、メシャク、アベデ・ネゴで、おそらく30代前半。彼らは拝まないと殺されることが分かっているのに、「いや、拝みません」と最後まで断固拒否して、燃え盛る火の中に投げ落とされて処刑されます。ところが奇跡によって救出され、全く害を受けませんでした。その後、彼らは大出世して、ネブカドネツアル王によって非常に栄えたんですね。ここで言っているのは、この一連の出来事は、終末時代に起こることの型だということなのです。

ダニエル書 3章

1ネブカドネツアル王は金の像を造った。その高さは六十キュビト、その幅は六キュビトであった。彼はこれをバビロン州のドラの平野に建てた。

これを拝ませるために奉献式をしたんですね。これを拝まないなら火あぶり。なぜそんなことをしたのか。理由が3つあります。

1) バビロンは多民族国家です。バビロンのメインの民族はカルデア人ですが、国がどんどん大きくなると、征服された国の民もバビロンの国民になるんです。結果、多民族国家になりました。

2そして、ネブカドネツアル王は人を遣わして、太守、長官、総督、参議官、財務官、司法官、保安官、および諸州のすべての高官を招集し、ネブカドネツアル王が建てた像の奉献式に出席させることにした。

日本語では官・官・官、いっぱい出て来る。しかし、太守・参議管・財務官・司法官の4人は古代ペルシア語で、それをヘブライ語表記してるんです。長官・総督はアッシリア語のアラム語化。最後の保安官・高官はアラム語です。

古代ペルシアはバビロンから見て東。アッシリアはバビロンから見て北。アラムはアッシリアから見て西と南。つまり、本来のバビロン州の周囲のすべての民族が、バビロン帝国がどんどん大きくなるにつれて、そしてネブカドネツアル王は、民族の出自を問わなかったんですね。「カルデア人やから出世できひん」ではなくて能力主義。よその国の人でも、有能ならなんぼでも登用しまっせ！

4伝令官は力強く叫んだ。「諸民族、諸国民、諸言語の者たちよ。あなたがたはこう命じられている。」

バビロンは諸民族で出来上がっている一つの国家・多民族国家なんです。多民族を一つにまとめ上げるには、生まれ育った国への忠誠心よりも、今仕えているバビロンへの忠誠心を優先してもらわないと困る。昔の人たちはこう考えました。「それぞれの民族に神がいる。バビロンが連戦連勝で一帶の国々を支配したということは、それぞれの民族の神よりもバビロンの神の方が強い。だから、バビロンの神を拝むことは、それぞれの神々も納得している。

自分たちの信仰は持っててもいいから、一番強いバビロンの神を拝め。」
こうして、バビロンへの忠誠を誓わせることで一つにまとめようとしたんです。

アメリカは移民の国ですね。今でも毎年 85 万人ずつ移民が増えてます。
移民が正式なアメリカ国籍を得るには試験があります。20 問。ちゃんと答えないとダメです。どんな問題が出るか分かってんねんけど、予習しないとダメですよ。
合格したら、星条旗に向かって誓わないといけません。「私はアメリカ合衆国を自分の国として忠誠を誓います！」

今でもアメリカ議会で最初にこれを言うし、公立小学校で唱えているし、スポーツの大きなイベントでもこれをやるんですね。

移民の国を一つにまとめるには、星条旗というシンボルに向かってちゃんと誓って、自分の出身国よりも、アメリカへの忠誠心の方が上であることを表明しなければならない。表明自体は大切なことです。

皆さんは日本人として生まれて（そうでない方がいたらすみません）、日本に対する忠誠心ありますか。そんなん言うたらね、「おまえ、クリスチャンやのに！」
クリスチャンやから言うてんねん。

日本への忠誠心とか愛国心とか言うと、右の人みたいに言われてしまう。
まあ左ではないことは確かですけど。僕はこれ正常だと思いますよ。

問題は信仰が絡んでるんです。偶像を拝め！拝めへんかったら炉の中に投げ込む！

6 ひれ伏して拝まない者はだれでも、即刻、火の燃える炉に投げ込まれる。

これが即刻できるのは、金の像のすぐ近くに炉が造られているからです。
つまり、これは踏み絵なんですよ。ここで忠誠を誓うか、それとも拒否して死刑になるかのどっちか。忠誠心を試すために拝むか死ぬか。生か死か。
もちろん皆「拝みます！」

7b 諸言語の者たちは、ひれ伏して、ネブカドネツアル王が建てた金の像を拝んだ。

2) わざわざ金の像を拝ませなくても、既に偶像はあるんです。

バビロンの神はマルドゥーク。有名なバベルの塔が既に再建されていて、バベルの塔の最上階にマルドゥークの神殿があるんですよ。

だから、バビロンの神々への礼拝がバビロンに対する忠誠を立証するのなら、新たに金の像を造らなくても、既に存在している偶像を拝ませることで十分。

にもかかわらず、彼は金の像を新たに造ったんですね。なぜか。

金の像を拝まないのに殺されない人が 1 だけいるんです。ネブカドネツアル王。彼は拝みません。つまり、自分が造った金の像を拝ませることで、間接的に自分が礼拝を受けてるんですよ。

独裁者は自分を神格化したい。民が自分を神だと思い込んだら、神への反逆が出来なくなるので、反抗心の芽を事前に摘み取ることが出来るんですね。

ネブカドネツアルが金の像が拝まれているのを見た時、俺が拝まれているという感じなんですよ。

世界中の有能な頭脳が集まって拝んでいるのを上から見た時、彼はどんな気持ちだったでしょう。「気持ちええわあ！みんな俺を拜んでる！」独裁者はこれをやる。

今日は言うのやめところと思ったけど、やっぱり言います。プーチンのこと。木曜日は、やっぱりプーチンのこと言わないと気が済まない。ロシアでは、人口のほとんどがロシア正教というキリスト教徒です。ロシア正教の教会堂のことを大聖堂と言います。その中で一番大きいのがロシア軍大聖堂。軍の大聖堂ってどういうこと？

第二次世界大戦の時、ロシアはナチスドイツと戦争しますね。独ソ戦争。スターリンは大祖国戦争と言うんですけど。たくさんの方が死にました。だけど、ソ連は絶対悪のナチスドイツに勝った。絶対悪に勝ったソ連は絶対正義だという位置づけ。

ナチスドイツ軍が残した膨大な数の戦車や大砲を溶鉱炉で溶かして、もう一度鉄材に造り直して、元ナチスの武器で造った聖堂がロシア軍大聖堂ですよ。これが2020年6月、関係者たちだけに公開されました。チラッと。チラ見。中を見た人、びっくり仰天や。

ロシア正教には20人くらい“せいじん”…バルタン星人じゃないですよ。聖人。神様に特別近い人たちがいるんですが、ロシア軍大聖堂には、聖人のモザイク画が3枚掲げられています。1人目スターリン。2人目プーチン。3枚目ショイグ…プリゴジンに「ショイグ！」って言われた奴ですよ。壁にモザイク画になって聖人として。あのね、もう人間じゃないの。この3人は、ロシア国民を善に導くための守護天使みたいな立場。でも、まだ生きてんねん。ショイグもプーチンも。

プーチンはこれをチラッと見せて、すぐ閉じて言うんです。「これは時期尚早である。」つまり謙遜を装ったわけ。「私のような者が聖人なんて…」おまえが作らしといてナニ言うてんねん、と思うんですが。これを作ったことが間違いだと言ってるんじゃない。公開するのがちょっと早すぎるぞと。

では、いつ公開するのがいいんですか？公開したのは2020年ですよ。ウクライナ戦争でウクライナを短期で完全制圧した後に、「我がロシア民族の解放者、救い主プーチン！」ということで、その時に公開しようと思ってたんです。だけど、下手打ちましたね。もうウクライナ戦争始まって500日以上ですよ。一進一退を繰り返してる。

それと同じように、ネブカドネツアル王は、バビロンの神々と自分を同一視させようとしているのが見え隠れしている。これが2つ目の理由です。

3) イスラエルの神に対する抵抗です。

全身金で出来た像、おそらく金箔や。中身は石膏か何かだと思っただけです。だって 27メートルの像って、黄金どうやって集めるんですか。なんぼ豪華な国や言うても。でも金の像。

1つ前の2章の前半で、ネブカドネツアル王は、ダニエルから終末預言を聞いてるんですよ。自分が見た夢の解き明かしが、そのまま終末預言の解説になる。人間の体を4つの部分に分けた像ができて、頭が金でバビロン、次にペルシア（メド・ペルシア）、ギリシア、そしてローマ。つまり「これから世界を支配する帝国は、この順番で登場しますよ」と言ってるんです。

「王よ、あなたは金です。」でも、全身じゃなくて頭だけが金なんです。体の中で、頭はサイズの一番小さいじゃないですか。すなわち、これから出て来る帝国の中で、バビロンが一番短命なんです。それが創造主からのメッセージでしたが、それに抵抗したい。頭だけじゃなくて全身を金にしたら、バビロン帝国の栄光が永久永遠に続く。それで、ダニエルを通して言われた解き明かしを覆すようなことをやってるんです。なぜ、そんなことをしたのか。

日本語の聖書だけでは絶対に分からないんですが、七十人訳聖書というのがあるんですね。これはギリシア語に訳された旧約聖書です。七十人訳聖書でダニエル書3章を見ると、この事件が起こった時期が明記されてる。「これは、ネブカドネツアル王の治世の第18年に起こった。」ネブカドネツアルが王になって18年目に金の像を建てた。これはBC586年です。

BC586年。この時、エルサレム神殿が炎上してるんですよ。「この野郎（586）！炎上させやがって！」と覚えてたらいいと何回か言いましたが。金の像を建てる直前に、ネブカドネツアル王は、ユダヤ人たちが信じている聖書の神・創造主である神を崇める神殿を炎上させて滅ぼした。

昔の人の考えでは、戦争で勝った人々の神が、負けた方の神よりも上になるんです。だから、バビロンの神々はユダヤ人が信じている神よりも強い。ということで、これをやるんですね。もはや向かうところ敵なし。引っかかっていたイスラエルの神殿も潰した。

ところが、ユダヤ人の3人（大体30代前半ですよ）は拝まなかった。**8このため、この機会に、あるカルデア人たちが進み出て、ユダヤ人たちを中傷して言った。**

カルデア人は民族名。生粋のバビロン人です。この機会に。どんな機会にしたのか。ユダヤ人たちを中傷する機会にしたんです。中傷するという言葉は、ヘブライ語の原意では「肉を食いちぎる」肉食動物が肉を情け容赦なくむさぼり食らうように中傷した。だけど、カルデア人はユダヤ人によって一度命拾いしてるんですよ。

2章でネブカドネツアル王が夢を見て、「解き明かしやれ！」とカルデア人に言ったけど、だれもできなかった。

「いざという時に全く役に立たないカルデア人の知者は皆殺しだ！」

その時、間に入って止めてくれたのがユダヤ人のダニエルです。

「王よ、私が信じる神は、あなたが見た夢を当てることも、その意味を解き明かすこともできます。」それを聞いて、ネブカドネツアル王は納得するんです。

ダニエルがその時に発言しなかったら、このカルデア人たちは皆、殺されています。カルデア人にとって、ユダヤ人たちは命の恩人なんですよ。

しかし、そのことをきっかけに、よそ者のくせに大出世したわけ。

「ずっと昔からここで生まれ育っているのに、よそから連れて来られた奴が俺たちよりも上のポジションに就いて。なんだ、アイツら！」

ジェラシー。妬み。これ、役人の世界やわ。地方の役人は知りませんが。

キャリア組。だって事務次官は1人しかねない。事務次官の上は大臣やからね。

12 あなたがバビロン州の行政をつかさどらせた何人かのユダヤ人がおります。シャデラク、メシャク、アベデ・ネゴです。王よ。この者たちはあなたを無視して、あなたの神々に仕えず、お建てになった金の像を拝みもいたしません。」

ここに3つの非難があります。

①あなたを無視しています。王を無視するのは反逆罪じゃないですか。

②あなたの神々に仕えません。不敬罪です。

③お建てになった金の像を拝みません。忠誠心がないんです。

こいつらは3重の反逆者。弁解の余地がないですよ！

13 ネブカドネツアルは怒り狂い、シャデラク、メシャク、アベデ・ネゴを連れて来るように命じた。それでこの三人は王の前に連れて来られた。

怒り狂った。もう怖かった。パワハラ上司。僕も今考えたらパワハラはありました。僕は10年間サラリーマンやったんですよ。僕らの時代は昭和です。

令和の皆さんに、ひと言言いたいことがあるんですよ。令和の皆さんがパワハラから守られて、訴えることができるようになったのは、先達たちの血の滲むような抗議運動と、首を掛けた様々な裁判沙汰の問題があったんです。

だから、後から生きている人は昔の人が知らない知識をいっぱい持ってるけど、昔の人が蒔いてくれたお蔭で助かってる面もあると思うので、昭和生まれを大切にしたいと思いますね。何の話や。

3人は連れて来られるんですけど、ネブカドネツアルは即刻炉に入れるのではなく、1回だけチャンスを与えるのよ。

15b 楽器の音を聞いたとき、ひれ伏して、私が造った像を拝むなら、それでよい。今までのことは水に流したる。しかし、もし拝まないなら、おまえたちは、即刻、火の燃える炉の中に投げ込まれる。そして、とうとう本音が出るんですね。

どの神が、私の手からおまえたちを救い出せるだろうか。」

この人、偶像の神を造っていながら、それらよりも俺の方が上やと言うてるんです。私が殺すと決めたら、どんな神が束になってかかって来ても無理やと。特に彼はイスラエルの神、すべての人間を創られた創造主、あなたの魂の親である方を意識しています。というのは、この直前にエルサレム神殿を崩壊させたから。どの神がという言葉は「おまえらが信じている神は、私の手から救い出せるか」と言ってるんですね。

16 シャデラク、メシャク、アベデ・ネゴは王に答えた。「ネブカドネツアル王よ、このことについて、私たちはお答えする必要はありません。」

こわっ！このことについて、私たちはお答えする必要はありません。これはどういう意味ですかね。多くの方が誤解していると思うので、ちょっと解説します。

私は YouTube をやっているの、時々すごいアンチコメントが来るんですよ。特に最近。僕はそれに対してちゃんと返事するの。文句言うても視聴者の1人だし、これで1回カウントされる。丁寧に「こういう意味なんですよ」と説明するんですが、その説明を聞いた上で、また嵩にかかってワッと来てる場合がある。その言葉から、説明が分かってない。その時、申し訳ないけどスルーするんです。スルーするけど、どんな気持ちかという、このことについて、私たちはお答えする必要はありません。言っても分からん人には、説明する必要ありません。

そういう意味じゃないんですよ、これは。それは失礼すぎひん？ちょっと弁解させてもらおうと、僕はスルーする時、心の中で詫びてるんです。ほんまに。「厄介な人を断りきれない」と言う人へのアドバイスは、スルーするのはいいけど、心の中で「すまん」と謝るんですよ。「今忙しくて、君に使う時間ないねん。ごめん。」それだけで、心がずいぶん軽くなりますよ。一度謝ったから。心の中でね。だから、繊細すぎる人はこれどうですか。すまん。そして無視する。ちゃう。スルーする。ここはそういう意味じゃないんですよね。どんな時でも、彼らは礼節を忘れない人たちです。

唯一の真の神だけを礼拝する。それ以外のものは拝まない。創造主である神だけを礼拝する。これは、だれかの許可を取って行うことではない。これが、このことについて、私たちはお答えする必要はありませんということです。人の許可をもらわないと、創造主を礼拝できないというのはおかしいことです。「王よ。王よりも上の方が、創造主を礼拝することを、すべての人間に求めておられるのです。それは、一々あなたが許して下さった時のみ出来ることではなく、すべての人が、今すぐすべきことなのです。」

17 もし、そうなれば（火の燃える炉の中に入れられたら）、私たちが仕える神は、

火の燃える炉から私たちを救い出すことができます。王よ、あなたの手からでも救い出します。こう言った後で、

18 しかし、たとえそうでなくても、王よ、ご承知ください。私たちはあなたの神々には仕えず、あなたが建てた金の像を拝むこともしません。

たとえそうでなくてもは、たとえ神が私たちを助けることができなくても、という意味ではありません。それなら、神は助けることができないと、神を疑っていることとなりますよね。これは、疑いから出て来た言葉ではないんです。

神のみこころが私たちを火の炉から助け出すことなら、私たちは助け出されます。神は簡単にできます。神のみこころが殉教することなら、私たちは殉教します。

私たちの考えと神の考えは、いつも違っています。違っていることが多いです。

「神のみこころは、私のような人間が考えているよりもはるかに深く、はるかに高く、はるかに賢いので、たとえ自分たちが思ったようでなかったとしても、あったとしても、私たちは神を信頼しています。」

思い通りにならなかつたら、もう神なんか信じない！というんじゃないんですね。

「神は絶対主権者で、私たちを助け出すことができます。もしそこに留まることが神のみこころなら、それを受け入れる心の準備ができています。どちらにしても、偶像の神、人間が造った神、宗教心が妄想した神々に仕えることはありません！」自分たちの信仰を表明したんですね。

19 すると、ネブカドネツアルは怒りに満ち、シャデラク、メシャク、アベデ・ネゴに対する顔つきが変わった。彼は炉を普通より七倍熱くするように命じた。

怒りの火に油を注いだ。温情を掛けたことが却って、自分の顔に泥を塗ることになった。聞かずに炉に放り込めばいいものを、ここで歩み寄って、それをも無に帰させることで二重の屈辱を受けた。それで、顔つきが変わった。彼は炉を普通より七倍熱くするように命じた。彼の怒りは7倍熱くなった。

20 また彼の軍隊の中の特に力の強い者たちに、シャデラク、メシャク、アベデ・ネゴを縛って、火の燃える炉に投げ込むように命じた。

21 三人は、上着や下着やかぶり物の衣服を着たまま縛られ、火の燃える炉の中に投げ込まれた。

これで一巻の終わり。焼き殺された。因みに、投げ込んだ人が、あまりの火力の強さで焼け死んでしまったことが書いてあります。ところがー

24 そのとき、ネブカドネツアル王は驚いて急に立ち上がり、顧問たちに尋ねた。

「われわれは三人の者を縛って火の中に投げ込んだのではなかったか。」彼らは王に答えた。「王様、そのとおりでございます。」

25 すると王は言った。「だが、私には、火の中を縄を解かれて歩いている四人の者が見える。しかも彼らは何の害も受けていない。第四の者の姿は神々の子のようだ。」

放り込んだのは3人なのに、私には4人いるように見える。しかも、だれも害を受けていない。縄を解かれて自由になって、火の中を涼しげに歩いている。いったいどういうことか。それに、第4の者は神々の子のようだ。驚いたネブカドネツアル王は「出て来なさい！」と言うんですね。

26bそこで、シャデラク、メシャク、アベデ・ネゴは火の中から出た。

皆さん、どう思いますか。「神が助けたんだ」と思う人はクリスチャンでしょう。「そんな奴はおらんで」「そんなことが？」
でも、**ダニエル書**には聖書預言が書いてあって、それは全部成就してるんです。正直に書いてあるんです。私はこれを見た時、ある話を思い出しますね。

アメリカの最終行程はニューヨークでした。ニューヨークの世界貿易センタービル。911テロ、2011年9月11日、ハイジャックされた航空機が、乗客乗員もろともビルに突っ込んで行って、崩れましたよね。あの崩れた地点がグランドゼロと言われていて、今そこに、統合された大きなワンワールドセンターが建っています。その高さは1776フィート。アメリカの独立の年は1776年。つまり、自分たちの国が出来た年の高さにして、「俺たちはテロなんかには負けるか！」こういうところって良くない？アメリカ人のこういうところ、好きやなあ。なんかガッツがあるというか、メソメソくよくよして、中東でいらんコトしたからや…とかそんなふうに思わないんです。そこ見倣いたいわ。あとは要らんけど。

貿易センタービルは南タワーと北タワーがあって、4機のハイジャックされた飛行機が次々に突っ込んで行くんですが、最初北タワーが激突されました。世界貿易センターには、ほとんど金融関係の企業が入ってるんですよ。今も。

ロン・ディ・フランチェスコという証券マンが南タワーの84階で勤務していたら、ドカーンと大きな音がした。向かいの北タワーの90階くらいが爆発炎上している。その時は飛行機とは分からなかったんですね。それで、一旦外に出ようとしたのですが、館内放送があったんです。「北タワーで爆発が起きましたが、南タワーは安全なので、平常通り仕事してください。大丈夫ですから。」

みんなデスクに向かおうとした瞬間、彼の携帯電話にカナダのトロントの友人から電話がかかって来た。「ロン！北タワーにハイジャックされた飛行機が激突した。今すぐ逃げろ！」でも、飛行機と言われてもセスナ機しか浮かばなかったんです。「ナニ言うてんねん」とともに受け取っていない状態の時に、北タワーの事件から13分後、ドカーンと音がして南タワーの81階に突っ込んだんですね。

すぐ停電して天井から色んな落下物があり、逃げようとしてもエレベーターは完全にストップしてる。それで、副社長が持っている懐中電灯を頼りに、84階から1階まで階段で降りようとしたら、下から上がって来る男女がいて、「下は煙と火災で一步も進めない。最上階まで上って、救命ヘリに救ってもらうのが一番です！」

また上がって90階くらいに行くんですが、防火扉が閉まってるんですよ。

煙を感知した時に、自動で鋼鉄の防火扉が閉まってしまった。
色んな抜け道を探すんですが、その時ロンさんの中で、何者かが「下に降りろ」と言うんです。「え?!」彼は一か八か下りて行くんですよ。90階から下へ。
下から上がってくる人たちが「おまえ、おかしいんじゃないか!」
仲間もやめろと言うんですが、彼はドンドン下りて行って80階まで下りた。

そこは1メートル先が煙で見えない。何か床がグニャグニャしてる。
一酸化炭素中毒で失神状態の人間が、床中にひしめいてたんです。
そして、真っ黒な煙の中から、火が轟々と自分の方に来た。
その時、「火に飛び込みなさい。もうひと踏ん張りだから、火の中に飛び込みなさい。下に下りて行きなさい。わたしが導くから。」

火の中に飛び込んで行ったら、階段で3人と会うんですが、彼らは消防士でした。
「我々はこの階段を伝って来たが、あそこに光が見える。あれを目指して行きなさい。」彼は言われたとおりに1階まで下りて、そのまま出ようとした時に、ガードマンに止められました。「北タワーの方に逃げなさい。」
実は熱さに耐えかねて、80階・90階・100階からおびたしい人間が飛び降りてたんです。ドスン!ドスン!人間が地面に激突して、ぐちゃぐちゃになってる。
彼は逃げる途中で気を失い、気づいたら病院のベッドの中でした。

激突された81階以上で助かったのは4人だけ。その中で最後に下りて来たのがロンでした。自分が命拾いしたのは、あの見えない声が導いてくれたから。
では、あの人はいったい誰なのか。こんなことを言ってもだれも信じないから、だれにも言わず、自分で調べ始めました。

これをサードマン現象と言います。見たこともない、見ることもできない第三者のような人が現れて、絶体絶命の窮地の時に、何か知らないけどその人の言うとおりにすると、死んでいたはずなのに命拾いした。世界中で同じような経験をしている人がいる。

有名なのが、南極大陸を横断しようとして失敗したアーネスト・シャクルトンです。
『エンデュアランス漂流記』、むちゃくちゃ面白い。ものすごいので、読むことをお勧めします。エンデュアランスは忍耐という意味ですが、もう面白い本です。

最終的に地図もテントもない状態で、北極圏を3人で36時間歩くんです。
雪が降って風が吹きつけて凍傷の状態です。2人の隊員が何度も何度もくじけそうになるんですが、彼は言います。「もう1人の方が付いてるの、分からない?メンバーではない人がいつも歩いて、話しかけてくれた。」すると「隊長もご覧になったんですか!」これは最後に出て来る話ですが、元祖サードマン現象じゃないですか。彼は「現に体験したんだから、だれが何を言ってもどうしようもない」と言ってるんですよ。

神は御使いを遣わして、守るべき人を守ってください。

実はこの箇所は、ものすごい思い出がある箇所なんです。僕は14年前に最初の妻を亡くしました。3人の子供を、私1人でどうやって育てていったらいいのか。その時、火の燃える炉の中で3人の縄を解いて、エスコートしている神々の子のような人…これを見た時、もう涙が出て来て、絶対に守ってくださると思いました。守ってくださっています。これからも良くしてくださると信じています。

さて、こうして助け出された彼らはどうなったでしょう。

28 ネブカドネツアルは言った。「ほむべきかな、シャデラク、メシャク、アベデ・ネゴの神。神は御使いを送って、このしもべたちを救い出された。王の命令に背いて、自分たちのからだを差し出しても神に信頼し、自分たちの神のほかはどんな神にも仕えず、また拝まないこの者たちを。

29 それゆえ、私は命令する。諸民族、諸国民、諸言語の者のうち、シャデラク、メシャク、アベデ・ネゴの神に対して不敬なことを口にする者はだれでも、八つ裂きにされ、その家はごみの山とされる。このように救い出すことのできる神は、ほかにないからだ。」

30 それから王は、シャデラク、メシャク、アベデ・ネゴをバビロン州で栄えさせた。

信仰のゆえに妥協しなかった彼らは、出て来た時に栄えたんです。特別な地位が与えられ、指導者たちの指導者となってバビロンで栄えた。実はこれが、この世界に起こることです。

やがて世界は艱難時代に入りますが、艱難時代は7年間続きます。特に後半の3年半は恐るべき時代で、反キリストと呼ばれる独裁者が現れます。そして、反キリストの像が建てられ、それを拝まない人たちは皆殺されます。反キリストの名前をヘブライ語にして数字で換算すると666になると**黙示録**に書いてありますが、**ダニエル書3章**の前半部分には3つの6が出て来るんです。

ダニエル書3章

1 ネブカドネツアル王は金の像を造った。その高さは六十キュピト、その幅は六キュピトであった。

5 あなたがたが角笛、二管の笛、豎琴、三角琴、ハープ、風笛、および、もろもろの楽器の音を聞いたときは、ひれ伏して、ネブカドネツアル王が建てた金の像を拝め。

60キュピト、6キュピト、6つの種類の楽器。金の像に関係する3つの6。666。それがバビロンの都に置かれる。高さ六十キュピト、幅六キュピトは10対1。それで、10対1の像を図面に描いてみたんですよ。

例えば、180cmの人がいて肩幅18cmやったら“棒”やん。それこそ、そんな奴はおらんで！つまり、不安定なんです。人が造った、全部金のように見える帝国は不安定で、押したらすぐ倒れてしまうようなもの。

艱難時代の7年間は、ユダヤ人たちには燃える火の炉のような時代です。しかし、その間妥協することなく、創造主である神／救い主イエス・キリストを宣

べ伝えるのが 144,000 人のユダヤ人たち。彼らは、艱難時代が終わった後の千年王国の時代に高く上げられます。艱難時代に試練の火の中を通ったユダヤ人の残りの人たちは、千年王国であらゆる民族のリーダーとなります。その終末預言のひな型になっているのが、この個所ではないかなと思いました。

ダニエル書 4 章はもっとすごい。もっと面白い。

これからますます面白くなっていくので、続けてお付き合い頂けたらと思います。この後、3 人の信仰者を守るために 1 人の御使いが遣わされる。それどころか、全人類のために救い主が遣わされるという預言が出て来るんですね。彼こそイエス・キリストです。あなたのための救い主です。預言書を通して、ぜひあなたの作者である神に出会ってください。心からお勧めします。

☆*: .. 〇 ..:*☆ ☆*: .. 〇 ..:*☆ ☆*: .. 〇 ..:*☆ ☆*: .. 〇 ..:*☆ ☆*: .. 〇 ..:*☆

引用文献；新日本聖書刊行会『聖書 新改訳 2017』いのちのことば社,2017